

平成22年度 へき地校体験実習 事後アンケート

実施者：北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門

実施形式：直前指導もしくは実習手帳提出時に配布

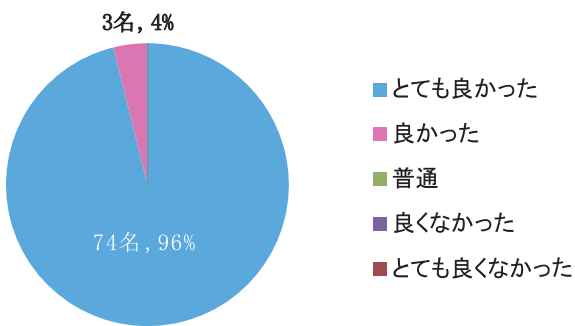
実施期間：平成22年9月～10月

対象者：85名（札幌・旭川・釧路校 へき地校体験実習〔夏期〕履修生）

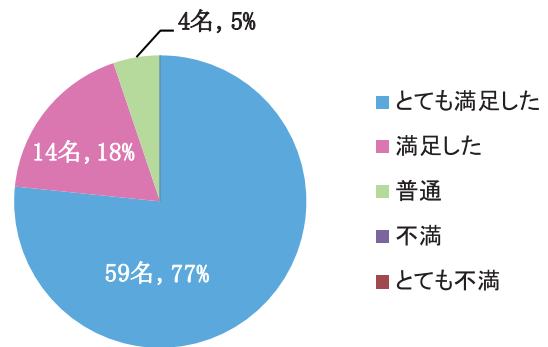
回答者：77名（回答率90.1%）

* 質問1～3については5段階評価

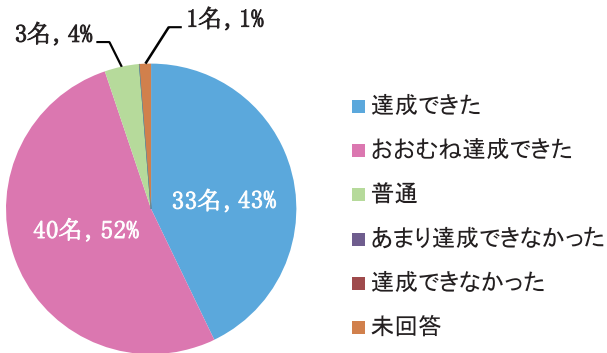
1. 今回の実習に参加してよかったか



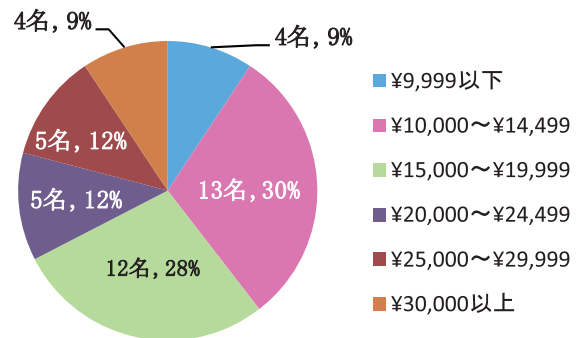
2. 実習の満足度は



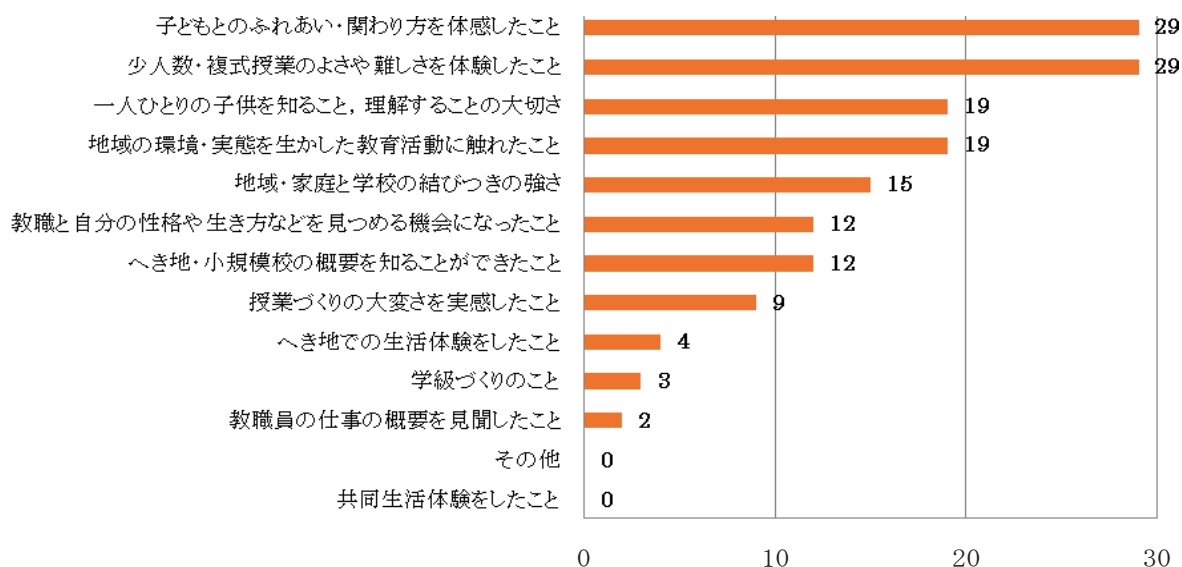
3. この実習で学びたかったことに対する達成度



4. 実習経費



5. 今回の実習においてもっとも大きな成果・学んだこと・感じたこと・考えさせられたことなど (1人2項目回答)



6. 実習を終えた感想

- ・実習は毎日が早く過ぎ、夢中で取り組んでいた。1分1秒を無駄にすることができずすべてが勉強になった。身近に教師の動きを見たことで今まで話しかけ聞いたことのない教師の忙しさを知ることができ少し不安になりました。また生徒達との関わりではやはり子どもが好きで教師になりたいと強く思うことができ充実した実習になった。
- ・実習前は不安で「行きたくない」と思っていたが、5日目には「まだ帰りたくない」と思うほど気持ちは変わっていた。子どもに「旭川に帰らないで」と言われたのが何より嬉しく辛かった。先生、子ども達が出迎え見送りに来てくれたのも嬉しくありがたかった。

失敗することもあったがきちんと指導して下さった。本当に素晴らしい人たちに恵まれた実習であった。

- ・体験実習をしてみて私にはまだまだ至らないことが多くあることを知った。そのことで子ども達に嫌な思いをさせてしまうときもあった。今回の実習で見つけた課題を実現できるよう今後取り組んでいきたい。多くの先生方の指導を見てきたので、それらを参考に今の自分に足りない力を身につけて行きたいと思う。
- ・実習というものが初めてでかなり緊張していましたが、先生方が優しく指導して下さったり子ども達とたくさん遊んだり話をするのができて、非常に有意義で楽しい実習になった。

今回の実習を通して小学校の先生になりたいと思うようになりました。この思いが強くなったのは確かです。

- ・本当にあっという間と感じる楽しい1週間でした。子ども達と様々な遊びを通して仲良くなれたり、お祭りを通して保護者や地域の方々と交流することもできました。こうした人達とのつながりだけでなく複式学級の授業を観ることができ充実した実習を過ごせました。
- ・初めての实習ということで緊張ばかりだった。多くのことを学ぶことができ本実習に大きく生かして行けると思う。
- ・とても勉強になる実習でした。子ども達と密接な関係を築くことができ嬉しかった。どのようにすれば子どもとの信頼関係が築けるのか、どのような言葉が大切なのか実際に自分で考え行動することができ貴重な経験になった。
- ・毎日児童と遊んで走り回って、授業を一緒に受けて、掃除や給食の時間も一緒に過ごして、放課後もスポーツをして教壇実習の準備をして…と他のことを考える暇がないほど充実していた。疲れていたが充実感と達成感があったので苦にならなかった。

少人数だったためクラス全員の名前を覚え触れ合うことが出来、5日間滞在しただけなのに別れるのがとても寂しかった。

- ・自分が先生と呼ばれたことに感動した。子ども達はとても素直でたくさん遊べてよかった。

また、へき地は地域とのつながりが深く、生徒の話を聞いていてもとても温かくなった。授業することも不安ではあったがたくさん学べて大きな糧となった。

- ・4人での共同生活は思っていたほど大変ではなかった。少人数学級の独特の雰囲気や学校と地域のつながりを身をもって感じることができ、その温かさを感じることができた1週間だった。
- ・5日間で多くのことを経験することができた。濃密な期間だったといえる。この実習を終えて教師になりたいと思う気持ちを強くすることができてよかったと思っている。
- ・まずへき地校の子ども達の素直さに驚いた。学年が違って仲がよく、下学年に対してとても面倒見がよい。これは都市部の子どもにはあまり見られないかと思うしすてきなことだと思う。
5日間の生活で子どもを理解することの大切さや、教師の責任などを学び教師は想像以上に大変な仕事だと思うが、なりたいたいと思う気持ちをもっと強まったのでよかった。
- ・実習が終わりとても充実感に満たされている。短い期間であったが実習を経験でき講義で学んだ以上にいろいろなことに気づくことができたのがよかった。
- ・へき地での生活は冷蔵庫も風呂もない環境にあったので、今の自分たちがいかに満ち足りているかを再確認する機会となった。その一方で地域の方々が学校教育に協力的なこと、子ども一人一人の様子を全員の先生が把握していることなど、へき地は教育の原点と言われる所以を体感できたことはとてもよかった。
5週間実習の前に教育の原点に触れたので、次の実習ではへき地校との比較もできると思う。今回の実習は次の実習に関連させてこそ生きると思うので今回学んだことを忘れないようにしたい。
- ・短い実習だけどころか一つでも身につけて帰りたいと言う気持ちで参加した実習。多くのことを学んで普通の生活でも生かしていきたい。無事終わることができてほっとしている。
- ・とても充実していて勉強させられる実習でした。一言で言えばとても楽しかったけど疲れしました。1週間でしたが教師という仕事は本当に大変なんだと感じました。特に授業というものがいかに難しいものであるか痛感しました。
- ・実習が終わってほっとしていますが、だんだんと子ども達との別れが寂しくなってきました。
子ども達にもっといろいろ指導してあげたり、やってあげたりしていたらと思う後悔が残っています。
- ・まずは大きな事故などのトラブルなく終わることができて安心しています。様々なことがありましたが、一言でまとめると「充実していてとにかく楽しかった」と言うことです。
素敵な先生方、生徒との触れ合いをもちろんへき地ならではの自然に恵まれた環境が新鮮で心が洗われるようでした。実習中の自分が純粋でいられたと思います。
- ・とても充実していた。すぐに子ども達とは仲良くなれ毎日が楽しかったです。
教壇体験ではボディパーカッションを扱った授業をしました。楽しい！と言ってもらえて嬉しかった反面反省すべき点、課題が見つかりました。
また、釧路校の学生さんと共同生活をし、協力し合って1週間で過ごせ仲良くなることもできました。
- ・講義を受けただけでは分からなかったことが実際に行くことで理解できたことが多かった。
「百聞は一見に如かず」という言葉通り、体験するとしないとでは理解度も違うし、様々な視点からへき地教育を観ることができた。また自分のこれからのについても見つめ直すよい機会となった。
- ・毎日目が回るほど忙しくあまり寝ることができなかつた。その分生徒とたくさん触れ合うことができたり、先生方の授業を参観させて頂いて、「生徒とどのように関わっていけばよいのか」「どのような工夫をしたらいいか」などを学ぶことができました。機会があればまた行きたいです。
- ・実習に行く前はすごく不安で行きたくないと思っていた。しかしこの実習でいろんな先生方、そして生徒とふれあえて自分自身とても成長できたと感じている。
- ・へき地の生徒や教師、保護者、地域の方々など実習に関わってくれた全員がとても温かく親切で1週間という短い期間でもたくさん関わることができとても楽しい実習となった。
学校生活と行事に参加し、へき地のよさをたくさん見つけることができたこと、授業で学んだ知識を自分の目と耳で感じることもできたのもよかったと思う。自分に足りない部分を見つめることができたので、今後の学生生活でもっと高めていきたいと感じることができた。
- ・かけがえのない体験ができたと思う。誰もが経験できることではなく選ばれたチャンスを掴んだからにはしっかりやろうと自覚して実習できた。
- ・実際の場に行くことが何倍も勉強になる。授業のことについても学べたが子ども達と関わるのがとても幸せで児童の実態について詳しく知ることができた。よい経験ができた5日間でした。

- ・へき地・小規模校の実態を自分の目で見て触れることができたのは大きな収穫でした。
自然豊かな学舎で子ども達がとても生き生きして、素直で明るく元気な子ばかりだった。たくさんの人との関わりの中で改めて自分を見つめ、将来について深く考えるいい機会になった。
- ・とても楽しい5日間でした。特に強く感じたことは教師と児童の距離の難しさである。「はじめをつけさせるよう指導するにはどうしたらよいか」という課題が見えた。それに加え信頼関係を築くことの大切さも感じた。
- ・とにかく実習が終わって「楽しかった」と強く思う。一週間ではあるが初めての長期実習で教壇実習もあり不安なこともたくさんあったがとてもよい経験になった。
子ども達とたくさんコミュニケーションをとることができ、へき地のよさ、温かさを強く感じ一度は勤めてみたいと思った。
- ・本当に楽しかったと思うことができる実習になった。子ども達との関わり方、指導の仕方、授業の作り方、進め方など毎日新しいことを学ぶことができた。そして様々な場面で考えさせられることが多くあり、実際に自分が体験してこそ学び感じることもあり本当によかったと思う。
- ・大変充実した実習でした。先生方や宿泊先の方がいつも気にかけて下さり、人の温かさを感じるとともに、伸び伸びと育つ子ども達と過ごすことができたことが実習での宝物です。
- ・5日間、とにかく早く過ぎていった。ようやく仲良くなれた頃に実習を終えなければならずとても残念。とても幸せな実習でした。

7. 実習中、特に指導を受けたことはどのようなことでしたか

- ・教師になる上での心構え／特にへき地の教員としての心がけ
- ・子どもの模範となり、毅然とした態度で指導を
- ・メタ認知能力をもった教師に
- ・子どもの特性、個性をとらえて指導を／子どもと遊びなさい、触れ合うこと
- ・子どもとの距離をどうとるか
- ・待つ姿勢を…考える時間を保障して／教えない／見守ること…すぐ手をかけない
- ・子どもに対しての言葉の重さ…何気ない一言のもつ意味
- ・誉めるタイミングとことば
- ・指導案の作成に関して／文字を丁寧に～誤字、脱字、漢字を使う
- ・発問や板書に関して／チョークやマジックの使い方、ノート記録は意識して
- ・話し方／話し言葉、日常会話にはなくて七癖が出る
- ・個人情報の扱いについて
- ・挨拶、身だしなみ、言葉遣い
- ・チームワークの大切さと個々の責任／自分から積極的に動くこと
- ・常に問題意識を持つこと…これでいいのか／まず自分なりの考えを持つこと

8. 実習校で印象に残った活動、指導の先生の言葉や行動は何ですか

- ・美深中学校との交流会の時に行った羊の乳搾り体験、部活動に参加してバドミントンをしたこと、校長先生のメタ認知能力をもった教師についての話。
- ・へき地校では学校環境や地域の特色を生かした教育活動を行うので、教師はその特色を把握していなければならないこと、小学校の教師には「元気」が絶対必要。「教師」は子どもを守ってあげる、助けてあげる存在でなくてはならない。
- ・実習中に富良野市の小中学校の音楽発表会があり、それに向けて全校で取り組んでいる活動の様子、そして本番の日のことがとても印象に残った。
高学年が低学年をひっぱりながら練習を進めたり、低学年もきちんと高学年の言うことを聞く、小規模校だからこそ全校で一つのものを作り上げていてとても心に残った。
また先生のはじめをつけた子ども達への関わり方も学ぶことが多く印象に残った。

- ・実習中音楽発表会があった。実習中は音楽発表会や学習発表会に向けての活動が多く、その成果をみることでとてもよい経験になった。少人数とはいえ、子ども達には差はもちろんあったが教師がどんな子に対しても同じように接し、子ども達から意見が出るのを待つ姿勢が印象的でした。素敵なお先生ばかりで教師としても人間としても目指したい存在でした。
- ・富良野塾OBの方に演劇指導を頂き、富良野演劇祭に参加する活動を行っていた。生徒の保護者の中にも富良野塾OBの方がいるみたいで、特色ある活動に触れることができた。
- ・富良野市の特性を生かした演劇練習が特に印象に残りました。へき地校といっても様々ですが「麓郷の子どもたち」のよさという言葉がとても心に残っています。
- ・校長先生の講義の時間におっしゃっていた「教師は学び続けなければならない」という言葉が印象に残っています。現状で満足することなく「これでいい」という妥協をしないで、「常に学び向上しようとする気持ちを忘れてはいけない」と強く感じた。教師は児童生徒と共に学んでいくものであることを改めて気づかされた。
- ・周辺小学校との集合学習に参加することができ、大きな集団に入ったときの子ども達の様子や先生方の言動を観ることができてよい経験になった。

「休み時間や放課後子ども達とたくさん遊ぶ中でお互いの信頼関係を構築する。これが授業するときにも役立つし、子どもを理解する上でとても重要なことである。」という言葉が印象的だった。

- ・全校児童で行ったイモ掘りの活動が印象的でした。とても楽しそうに生き生きと取り組んでいる姿をたくさん見ることができた。先生の印象的だったところは授業の間の休み時間は必ず教室にいて児童と話をしているところでした。児童から話しかけていることが多かったが、教師はきちんと耳を傾けて聴いていました。
- ・村の祭りに参加し、生徒や地域の人達と関わり、地域と学校の結びつきと地域の温かさを感じることができた。部活動が二つに限られており生徒は自分の行いたいスポーツができないという印象を受けたが、その状況でも教師が練習に加わるなどして一生懸命練習している姿が印象に残ります。
- ・放課後の文化祭の係り活動では、生徒だけでなく先生も一緒になって仕事をしているところが小規模の学校らしく、この活動を通していろんな生徒と接することができた。
- ・実習中に地域の祭りがあったのですが、地域の人達がとても温かくて話しかけてくれたり食べ物をくれたり…旭川ではあり得ないことだと思うのでとても印象的でした。
- ・富村牛小中学校では、地域産業理解体験という名目で牧場とエゾシカの商品化を行っている会社の見学とそこでの体験活動を行った。牛に実際にさわったりすることは私の人生であるかないかのことなのでとても貴重な体験になった。
- ・部活動でのシャトルラン100回成功した生徒を朝の会ですぐ褒めていた。学級通信でもそのことに触れたり、他の生徒の英語暗唱大会の内容で褒めていたこと。
- ・「実習は実習だから、気を張りつめることなく楽しくやって欲しいな」と担当の先生がおっしゃってくれました。この言葉でいい意味で肩の力が抜けて実習を行えました。
何人かの先生も交えて、体育の授業でランニングができたことが強く印象に残っています。校長先生方も見られていて、まるで学校行事のようでした。
- ・「へき地の子ども達は素直で指導することも少ないが、地域独特の文化やしがらみと言った物がついてくるので、そのしがらみや文化になじめないと少し辛いものがあるかもしれない」という言葉が印象的でした。
- ・やはり授業です。生徒達がこんなにも下手くそな授業を一生懸命聴いてくれて本当に嬉しかった。指導の先生からのさりげないアドバイスや褒めて頂いた言葉が嬉しかったしとてもためになった。
- ・マラソン大会で子ども達全員が真剣に取り組んでいたこと。子ども達からこのマラソン大会をみんなで素晴らしいものにしようとする意気込みが感じられた。全員が金メダルである。
先生方はいつも子ども達の日線というものを大事にしていろいろなことに取り組んでいること。
- ・体育としての扱いの子ども相撲大会を、地域のお年寄りの方々も見に来ていたことは印象に残っている。また放課後迎えに来た保護者が校内外で先生と話をしたり、地域の方々がボランティアとして子ども達の放課後の遊びの様子を見守っていることから、地域、家庭、学校が一体となって子どもを育てている姿勢にとっても共感できた。
「家庭との問題はよりよい関係を築くいいチャンス」という先生の言葉が忘れられない。先生方にこのような姿勢があるからこそ一体となった教育が可能になるのだと強く感じた。
- ・指導の先生の言葉で印象に残ったのは、「学校は教師がチームプレイをし、一人の子どもを多くの先生で育てる」

という言葉です。これはへき地校に限ったことではなく教師として大事なことである。実習校では先生方がそのことを普通に行っていた。

- ・集合学習で3校が集まって交流したことが印象に残っている。とても緊張した様子で他校の子ども達と自己紹介をし合う様子は、普段多くの人とコミュニケーションをとることが少ない子ども達にこのような機会を設けることの必要性を感じた。

先生方が子ども達に交流を持たせる工夫をたくさん見ることができたので勉強になった。

- ・演劇の授業、卓球部しかない部活動、なんどもあった収穫祭、水泳学習が印象に残る活動でした。
- ・バドミントン少年団の活動を見に行ったこと。かなり本格的ですごく驚いた。一緒に練習に参加したが、中学時代自分がバドミントン部で活動していたことが思い出されて楽しかった。

小学生といえども少年団の練習には、「目的意識を持って参加しなさい」と先生が厳しい口調で言っていたのが印象的でした。

- ・北海道で教員をやることはおもしろい。大規模校、小規模校、へき地校あり、どの学校に赴任するか分からない。道外でも同じだろう。

実習を通じて様々な学校を参観し、それぞれの学校のよさを学んでくるとよいと感じた。

- ・「あまり気張らないで子どもと会話するように授業を」、「子どもと関わっていくことを大切に」、「子どもに任せて責任感と自主性を」…いろいろな言葉が残っています。
- ・最終日に行った研究授業。初めての授業で指導案作りから流れを考えることまで…慣れないことばかりなので先生方にたくさん助けて頂いた。4年生理科「星座早見をつくろう」という単元で授業をしたが、緊張してうまくいかないことばかり、内容が伝わったのか手応えがなかった。

授業後の研究協議で指導の先生から「児童には星座に興味を持って欲しいという熱意は伝わっていると思う」と言う言葉を頂いてとても嬉しかった。

- ・子ども一人一人の性格を考えてアドバイスをしなければならないこと、教師とは子どもの前で楽しく同じ目線になる一面と、指導者としての一面の両方が必要であると言うこと。
- ・「失敗を恐れない、失敗を次に生かす」と言うこと。授業をしてみて失敗してもこのように励まして貰って気が楽になった。気が楽になるだけでなく、本当に多くのことを失敗から得ることができた。
- ・校長先生のお話の中で「この子ども達はみんな天使だから」と言う言葉がとても印象に残っています。子ども達がとても素直でかわいいと言うことなんだと思います。

私がそれを感じたのは実習3日目の相撲大会のときです。負けて悔し泣きする高学年の児童をみて本当にまっすぐで素直な子ども達だなと思いました。

- ・授業における先生の言動です。特に低学年では授業中に教えることと同時に、学習のルールなどを確認しながら進めていくことの大変さや難しさを学びました。
- ・先生方の子どもの褒め方です。ほんの些細なことでも子どもを褒めると言うことはとても大切なことだということを感じ取ることができました。またその時にどのようにして伝えるのかということも学びました。
- ・「一人の子どもに振り回されている」と言う教頭先生の講義の中の言葉です。クラスの子一人のことで毎日会議が続くことがあるのです。子どもから学ばなければよりよい教育ができないのだなあと感じた。
- ・総合学習の「国づくり」と言う活動でした。3～6年生が合同で作業し自然の中で授業をする。へき地校ならではの活動だと思った。指導の先生の動きで印象に残っていることは、宿題をその子の苦手な範囲を選んで出していたが、少人数だからできることだと思った。